社会科学習指導案

指導者　　迫　　眞　也

日　時　平成28年11月19日（土）　第２校時（11:05～11:55）
年　組　中学校第１学年２組　計39名（男子18名，女子21名）
場　所　中学校第１学年２組教室
単　元　わたしたちの暮らしを守る

単元について

平成26年８月に広島市安佐南区・安佐北区で発生した広島土砂災害では，局地的な豪雨とそれに伴う同時多発的な大規模土石流により，死者は74名にまでのぼる未曾有の大災害となった。幸い，当時の本校に直接被災した生徒はいなかったものの,身近な地域で起きた災害とメディアから伝えられる情報によって，地域住民のみならず，生徒たちの防災に対する関心は大きく高まっていた。現在も被災地の復旧・復興は進んでおり，災害は今も完全に“終わった”わけではない。しかし，２年という時間が経過して，当事者以外の関心は薄れてきている。広島市は全国有数の“斜面都市”である。平坦地が少なく，多くの住宅が斜面地に建設されたため，これまでも多くの土砂災害に見舞われてきた。平成11年に起きた土砂災害では県内で多数の土砂崩れや土石流が発生し，死者は31名にのぼっている。これを受け，平成12年に土砂災害防止法が制定されるまでに至った。その結果，広島県内では約32,000カ所が土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定され，その土砂災害危険箇所の指定数は全国ワースト１という事実がある。広島市に暮らす人々にとっては，土砂災害はとりわけ身近な災害なのである。

本学級は指導者が担任を務めるクラスである。社会科の授業に苦手意識を持っているわけではないが，一問一答的な問いかけの他には，自分からすすんで発表することにためらう生徒が多い。そのため，授業中は，積極的な挙手による発表よりも，しっかり考えて意見を文章化したものを発表するほうがスムースなことが多い。その一方，少人数班による話し合いでは，活発に意見を交流する様子が見られることから，話し合っていくことに抵抗感はほとんどないように思われる。

このことから，ことばによる表現の前に，自らの意見をいったん文章化してから発表すること，また，集団思考による話し合い活動の中で，自分の意見に自信を持たせるような工夫が必要だと考える。また，中学校１年生の段階では，生活経験の乏しさから社会生活に対するイメージを持ちにくいということも考えられるため，当事者性を持たせるための工夫も必要になる。本授業では，これを街づくりのプランナーという立場に立たせることで，考えさせたい。災害からの安全・安心を求める気持ちは，大人のみならず，中学生にもある。しかし，広島で暮らすということは，同時に災害の危険性をはらんだ土地に暮らすということでもある。中学生にとって，将来にわたるこうした危険性と社会生活にどう折り合いをつけていくかの比較考量を検討することは，社会に関わる意欲を高めることが期待できると考える。

指導目標

１．日本のさまざまな特徴的な地形が，多様な災害を引き起こしていることを理解させる。
２．自然環境と災害の関係や，災害を引き起こす自然環境が，住民へ与える影響を説明することができる。
３．自然災害と防災への努力を知ることで，防災意識を高める。

指導計画

世界から見た日本の姿（全17時間のうち８時間）

１．世界から見た日本の自然環境‥‥‥‥‥‥‥４時間

２．防災と私たちの暮らし‥‥‥‥‥‥‥４時間

・自然災害と防災への取り組み‥‥‥‥‥１時間

・広島と土砂災害～なぜ斜面地に人は住むのだろうか～‥‥‥‥‥１時間

・斜面地に暮らす人々～斜面地にはどのような災害対策があるのだろうか～‥‥‥‥‥１時間

・私たちの暮らしを守る～都市プランナーになろう～‥‥‥‥‥１時間（本時）

本時の目標

広島市の都市プランづくりを通じて，災害の起こりやすい都市での暮らしを考えることができる。

協働的問題解決を生起させるための手立て

協働的問題解決を生起させるため，本授業では二つの手立てを取り入れた。まず，本時のめあてを可能な限りオーセンティックな課題設定とすることである。仮想であるとはいえ，自分たちの考えを身近な実社会に暮らす誰かのために役立てるという視点で考えることが，問題解決に向けての意欲を高めると考える。もう一つは，個人思考を行った上で，少人数班での集団思考を取り入れる過程を取り入れたことである。答のない問いに向かって，個人思考によって自らの考えを明確にした上で，集団思考でそれらをブラッシュアップし，そこで得たものをさらに個人に返すような授業展開を計画した。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点　（◆評価）
１．導入（10分） □前時までの復習 ・土砂災害が起きたのは，斜面地である ・広島市の各地に，土砂災害の被災地がある ・全国でさまざまな防災対策がみられた	○これまでの学習を振り返りながら，広島市が災害対策に取り組む必然性を確認する
災害と向き合う街づくりを考えよう	
２．展開（35分） □個人思考 「斜面地を多くもつ広島市の防災を考えた街づくりのアイディアを考えよう」 ・広島市に必要な防災のアイディアを考える ・まちづくりで何を優先させるか，理由とともに考える □集団思考（４人班） 「自分のアイディアと他の人のアイディアを交流して，ひとつのプランにまとめよう」 ・それぞれが考えたアイディアをもとに，提案するプランを企画書にまとめる ・４人で話し合って，何を優先するかを決めてから，まちづくりプランをまとめる	○これまでの授業で学んだ事例を参考に，都市づくりのプランを考える ○後で少人数班による交流することを意識して，多くのアイディアを挙げておくように指示する ○まちづくりを考える際に，何を優先させて考えるかを意識させる ○自分の考えを他の３人に説明する ○４人で組み合わせたアイディアを街づくりのコンセプトとして，優先事項・ポイントなどをフリップに表現させる

□意見交流 「班ごとに，自分たちのアイディアを紹介しよう」 ・タブレットにフリップ状に表示されたものに，自分たちのめざす街づくりを記入する ・作成したフリップをもとに，くわしい内容を代表者が説明する	○フリップには大きな文字で書き，細かい内容は説明させる
□ゲストティーチャーによる講評 「みなさんのアイディアは，プロから見てどのようなものだったでしょうか」 「それでは，広島市では実際にどんな取り組みをしているのでしょうか」	○ゲストティーチャーから，生徒のまちづくりプランについての評価をしていただく ○ゲストティーチャーから，実際の広島市では，防災のまちづくりにどのように取り組んでおられるのか，事例を紹介していただく
３．まとめ（5分） □自分の生活に返して考える 「災害と向き合う街とは，どんな街だろう」 ・今日の議論を通じて，災害と向き合うために最も大切な要素は何だったかを考える	◆街づくりを災害が起こることを前提として考えることができている【思考・判断・表現】

参考文献

小原友行，『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校社会科の授業プラン』，明治図書，2016
社会認識教育学会，『新社会科教育学ハンドブック』，明治図書，2012.
杉江修治，『協同学習入門』，ナカニシヤ出版，2011.
西岡誠治，第１回防災推進国民大会発表資料「土砂災害危険性の増大する斜面都市の再生～広島・佐世保を例に～」，2016.